

平成29年度北海道職員表彰式(成績顕著:最優秀)

実施日時

平成29年7月25日(火) 10:00～

式次第

- 1 開式
- 2 知事挨拶
- 3 選考経過報告
- 4 表彰状授与
- 5 受賞者からひとこと
- 6 懇談
- 7 閉会

表彰事由

- 歴史文化資源の有効な活用方法の検討とファンドレイジングモデルの提案
- 北海道の産官学のものづくり力を結集した競技用シットスキー開発プロジェクトの取組

表彰式の様子



歴史文化資源の有効な活用方法の検討とファンドレイジングモデルの提案

受賞者

環境生活部 総務課 (現・総合政策部知事室秘書課)	主任	なばた だいち 名畑 太智
環境生活部 総務課 (現・同主任)	主事	しもむら たかひろ 下村 考弘
環境生活部 環境局 環境政策課 (現・総務部東京事務所(株式会社 日本政策投資銀行 派遣))	主事	よしだ だいき 吉田 大輝
環境生活部 環境局 環境政策課 (現・総合政策部知事室秘書課)	主事	つかはら さおり 塚原 沙織
環境生活部 暮らし安全局 道民生活課 (現・総務部北方領土対策根室地域本部主任)	主事	なかやま なおや 中山 直哉
環境生活部 文化・スポーツ局 文化振興課 (現・環境生活部暮らし安全局道民生活課女性支援室)	主任	さとう あさみ 佐藤 麻美
		(東神楽町から派遣)

概要

●平成28年度プロポーザル型政策形成事業の一つとして、北海道開拓の村を舞台に交流人口の増加と民間活力の有効活用を目的に、資金調達や役務の提供等の人々の支援全般である「ファンドレイジング」を基調とした企画を検討してきたもの。

●検討にあたっては、まず、大学生と若手道職員の混合チームによるワークショップの開催や道職員アンケート、先進地視察、民間企業等へのヒアリングを実施し、北海道開拓の村の取り組むべき課題を明らかにした。

●課題を踏まえ、平成28年度においては(1)若者向けのイベント開催、(2) SNSによる情報発信、(3) 庁内職員への周知、(4) 協力者のマッチングの4つの取組を実践した。

●これらの取組はイベント参加者や関係者から好評が得られ、一部では新聞等にも取り上げられるとともに、村の運営に係る資金等を得ることもでき、北海道開拓の村でのファンドレイジング手法を活用した民間活力の導入を一層推進していくキッカケとなった。

●また、これらの取組を背景に、国に対し地方創生拠点整備交付金を申請したところ(「北海道特有の歴史文化を活用したインバウンド交流施設整備事業」)、交付対象事業に決定され、開拓の村を中心としたハードとソフトの両面による施策展開への発展が期待された。

●なお、現在、本取組は、環境生活部独自の採用1年目職員研修プログラムの一つとして組み込み、継続的かつ発展的な実践を図っているところ。1年目職員の独自の発想により北海道開拓の村で村の衣装を着ながら、北海道テレビ放送(株)の「onちゃんおはよう体操」に出演するなど、新たな展開に発展している。

※ 詳細は北海道政策局HP「歴史文化施設交流促進ファンドレイジングプログラム」に記載。
(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/puropo.htm>)

参考

【大学生とのワークショップ】



【民間企業等へのヒアリング】



これらの意見を踏まえ、できることを一つひとつ実施するため、H28年度では(1)若者向けのイベント開催、(2) SNSによる情報発信、(3) 庁内職員への周知、(4) 協力者のマッチングを重点的に取り組むこととした。

(1) 若者向けイベント「コスプレ撮影会」



(3) 庁内職員への周知「特別パネル展」



(2) SNSによる情報発信「YUTORIダイバシティ〜ず」(4) 協力者のマッチング「ヨシの建材活用」



北海道の産官学のものづくり力を結集した競技用シットスキー開発プロジェクトの取組

受賞者

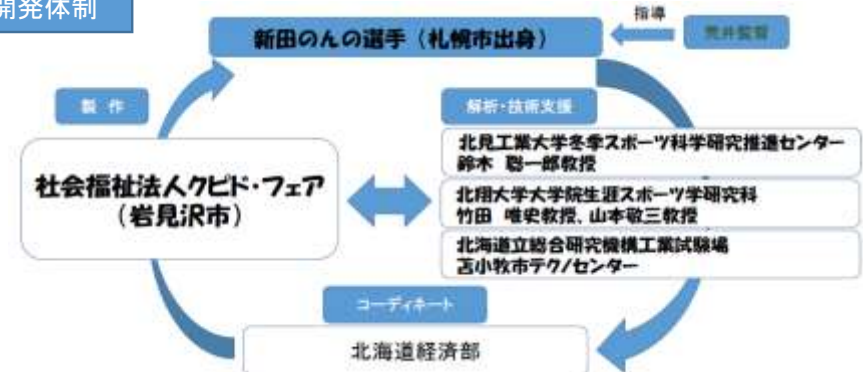
経済部産業振興局産業振興課	主幹	かきざき ひとし 柿崎 仁
同	主査	ながしま まさみ 長島 正己 (現 空知総合振興局産業振興部商工労働観光課長)
同	主査	やの しんいち 矢野 伸一
同	主任	いしもり かずゆき 石森 和幸 (栗山町から派遣)

概要

- 道では、本道ものづくり産業の集積に向け、今後成長が期待される分野として、健康長寿産業を新たなターゲットとして、産業振興の取組を展開。
- 平成28年2月、パラノルディックスキー日本チームの荒井秀樹監督(旭川市出身、株式会社リョウソウ所属)から、**シットスキーでピョンチャンオリンピック出場を目指す新田のんの選手**(現日本障害者スキー連盟強化指定選手 札幌市在住)の**専用競技用具の開発**依頼を受け、取組を開始。(新田選手はそれまで身体に合わない男性用の用具を使用。)
- 北海道の技術による、北海道の人のため、北海道らしい製品の開発は、道内ものづくり企業による**健康長寿分野への参入に向けた象徴的なプロジェクト**であり、また、札幌オリンピック・パラリンピック招致に向けた気運の醸成に貢献。
- 道内には競技用シットスキーの製作ノウハウが少ないため、**北見工業大学冬季スポーツ科学研究推進センター**や**道立総合研究機構工業試験場**などに**技術的サポート**を依頼。
 - ・北見工業大学のモーションキャプチャー等による新田選手の動作解析。
 - ・軽量・高強度を実現するシットスキーの使用材料の選定や加工技術など。
- 製作は、過去にシットスキー製作の経験を持ち、またカーゴメット車椅子の高度な製造技術を持つ**社会福祉法人クビド・フェア(岩見沢市)**に依頼。
- 製作費用は、**クラウドファンディング**により広く**資金支援を求め**ることとし、道としても、調達活動を行う新田選手をバックアップ。
- 平成28年11月、改良型シットスキーが完成、12月IPCノルディックスキーワールドカップ 第1戦フィンランド大会で実戦初使用。
- 平成29年3月、**IPCノルディックスキーワールドカップ 第3戦札幌大会**において、**4位に入賞するとともに、ピョンチャンオリンピック出場の国際基準を突破。**
- 本年4月から、新田選手や荒井監督の要請を受け、**ピョンチャンオリンピック出場に向け、シットスキーの性能向上等を目指した更なる改良の取組を開始。**
 - ・新たに**北翔大学**(新田選手の進学先)が**加わり、開発体制を強化**

参考

開発体制



開発までの流れ



クラウドファンディングの活用

シットスキーの製作費用+新田選手の活動費について、(株)アクトナウが運営するクラウドファンディングを活用して広く公募し、140万円を調達。

